

おくやみの手紙

様ご遺族の皆様へ

様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

不安を持ちつつ、病院から自宅へ帰ったことを喜んでいらっしゃいました。様、様のことでした。上のお姉さんがいなくなって寂しい日々だったと思いますが、今は側にいかれたのですね。最期までの日々を、様に全面的に委ね、その時の準備をしながら、一生懸命生きていらっしゃいました。亡くなる数日前、ヘルパーのさんが作ったおうどんを全て召し上がられたと伺い、良かったと喜びました。

思えば約2ヶ月半という長いようで短い期間でしたが、様の皆様方と共に様のケアに携われ、多くの学びをさせていただきました。そのような機会を与えてくださったこと、心より感謝申し上げます。


独居に加えて、全身の浮腫、だるさや痛み、混乱などいろいろ困難があり、正直申し上げまして私たちもどこまでできるのか不安でした。能取りをしながら私たちも何らかのこともありました。様と皆様とが選ばれたご自宅での療養を最後まで貫くことができ、悲しみの中にも今はよかったなどと言う不思議な気持ちがございます。それに家の皆様の様に対する愛情の深さ、熱意と絆の強さ、また時に応じて成長される姿をいつも感激しながら拝見しておりました。ここまでできたのはひとえに皆様方の力だと改めて思っています。

「在宅ホスピスケアこそ理想のホスピスケア」と信じて実践に励んでいるものにとって、今回の経験は大きな自信となりました。これからも微力ながら在宅ホスピスケアの普及に向けて努めたいと願っていますので、今度は私たちを声援してくださいませようお願いします。

とは申しましてもあまりにも早いお別れゆえ、皆様方の心中察して余りあるものがございます。時が皆様の傷ついた心を癒してくれるものと信じておりますので、私たちの力が及ばなかった分をお許しください。

今は亡き様のご冥福をお祈りすると共に、残されたご遺族一人一人の上に天来の慰めがありますようお祈り申し上げます。

敬具
平成15年6月6日
ホームケアクリニック川越
川越 厚



拝啓 寒く厳しい折いかがお過ごしうか。早いもので、様がお七くなりになって一年が経過しました。月日がつらい気持ちを癒してくれれば申しましても、様がいられない寂しさはいつまでも変わらないのではと案じております。私達も、様やご家族のことを懐かしく思い出しております。そして皆様からいただいた力をもとに在宅ホスピスケアとケアを続けたいと願っております。天来の慰めが皆様におまいりようお祈りいたします。敬具

平成十五年二月
ボランティアグループ・バリエーション
川越 厚

亡くなった直後の手紙

1年後に送る手紙

4) 地域に対する啓発活動 地域の方を対象とした講演会



創立1周年記念行事 『がんになっても
大丈夫ーずっとわが家で過ごしたいー』

7. 今後の課題と新しい息吹

- 1) 情報開示の問題（資料参照）
- 2) 介護力が弱い家族(特に独居患者など)
の在宅ケアをどう実現するか？
- 3) 地域連携システムの構築
- 4) 地域での様々な取り組み
- 5) 末期がん患者の在宅ケアを担う
医療者・医療機関とは
- 6) 在宅死率を目標とした場合の、必要な
診療所数、看護師数
- 7) 介護保険適用の問題

7-2) 介護力が弱い家族(独居患者など) の在宅ケア

現状でも独居患者の在宅死は可能である
ただし、総合的な力が医療機関に求められる